

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		コベルプラス松井山手教室				公表日	2025年1月25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			コミュトレ時はせまく感じる。 コミュトレ時はせまく感じることもあり、一度にプレイルームで活動する人数を検討するなど対応をとっていきたいと思います。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1		子供の数が多し時に、指導員が少ないと回らないこともある。ヒヤリハットにつながることも。 職員配置数に関しては少ない意見も頂いており、適宜増員に向けて対応しておりますが、なかなか実現にいたっておらず申し訳ございません。今後としても、引き続き人員が確保できますよう努めてまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・視覚的にレッスン室がわかりやすくなるように、それぞれの部屋の動物を掲示しています。 ・教室の職員のプロフィールを壁面に掲示し、保護者やお子様にどの様な職員がいるのかをお知らせしています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・床に関して、防音、防衝撃対策にマットを重ねて敷いております。 ・安全配慮義務として、子どもが入れない場所に柵を設けています。 ・感染防止の観点からも換気扇を常時点灯し窓の開閉だけでない換気方法を継続して行います。	時折、掃除を怠ってしまうことがある。 掃除を丁寧に行い、清潔で快適な環境の維持に努めていきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			できるだけ個別の対応が必要なときは行うものの、混雑時に別の部屋を使うのが難しいときもある。 できるだけ個別の対応が必要なときは空いているお部屋を使うものの、混雑時はお部屋が空いていないこともあり申し訳ありません。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6			PDCAサイクルの価値観を周知するとともに、職員個々人が尊重され心理的安全を得ることように努め、それぞれが主体性を持って業務改善を図れるような環境づくりを目指していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・普段から、承ったご意見に関して迅速に対応できるようにしています。 ・ご意見を承った際には、情報を職員で共有し適宜対応するようにしています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		内部研修を中心に、職員の資質向上に努めています。	継続的な研修を行えるようにし、専門性の向上を図ります。外部研修を含む学ぶ機会を確保できるように、環境面に関しても積極的に整えられるよう努めます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				

適切な支援の提供	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		コベルプラスでのアセスメント専用の教材を準備しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			個別支援課題の共有方法。人数が多いので全員把握できない。 個人ファイルのすぐに確認しやすいところに、個別課題を明示して共有、把握しやすいように努めます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		主に担当者、チームを決めて、コミュニティ等の企画立案を行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		個支や保護者の要望に基づき療育プログラムを工夫している。 基本的に毎回内容が変わるように配慮しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			集団への偏りは若干ある。 ・子どもの活動状況について都度見直しを行い、より子どもや保護者のニーズにあったバランスでの療育ができるように努めます。 ・時間、定員という要因もあり、個別療育、集団療育のバランスに偏りがある場合があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		朝礼を始め、事前打合せを適宜行い、内容の確認などを行った上で、支援にあたるようにしています。	朝礼で一人ずつ支援の内容や自分の役割のことについて発言している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2		必ずではない。 終了後が難しいときは朝礼等も活用しながら、情報や視点の共有が密にできるように努めていきます。
関係	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々の支援の中でのお子様の様子について記録をとり、次の支援にいかせるようにしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		基本的に半年に一度のモニタリングを行い、見直しをその度行っています。	個別支援計画の見直しにおいては、より根拠を踏まえて情報共有をすることで、支援計画の理解を促せるようにしていきます。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			保育園とは連携がとれているが、医療に関しては不明。 今後医療機関との連携が必要なお子様は連携をとっていききたいと思います。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		保護者の方の希望があれば積極的に幼稚園や保育園の訪問を行い、支援を行っています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学にあたって、必要に応じて情報共有を行っています。年長さんは卒園時に向けて「サポートノート」を作成しています。プロフィール、身辺自立のチェックリスト、園訪問での記録、お子様の好きなことや苦手な事を記載し、小学校の先生方にスムーズに引継ぎができる資料となっています。	

保護者との連携	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				地域の児発センターとの連携を図りたいと思う。 専門機関との機会を必要時応じて設定できるようにしています。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	2		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		園訪問はできているが、交流は難しい。 交流自体ができていない現状があります。園訪問などで関係を深めながら、徐々にそうした機会をつくれるよう取り組んでいきたいと思っています。
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			提示方法は改善しても良い。 ペアトレのご案内について、検討を重ねていきたいと思っています。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1		・保護者会を復活できるようになってほしい。 本社と協議の上、保護者会が再開できるようにしていきたいと思っています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・インスタ ・Instagramに力を入れている。	Instagramを活用して、日々の療育の様子についてお伝えしています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	3		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			マニュアルの周知方法 マニュアルを保護者の方にも見ていただきやすいように玄関に置いております。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			

非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	・不安がある時は口頭で保護者に確認している。 ・小麦粘土を使う際は確認している。	・特記事項のお子様がない。 ・てんかん発作時への対応がわからない。 てんかん発作時の対応について学びたいという声が出ました。内部研修などでの実施を検討していきたいと思っています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	・不安がある時は口頭で保護者に確認している。	・アレルギーについて分かりやすく書いた方がよい。 ・人数が多く、分からない所もある。 ・食事の提供は行っていない。 食物の取り扱いはありません。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		事例を取りまとめ、共有ができるようにしています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		最低年に1回虐待に関する研修に参加することとしています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		契約時に説明を行っています。 また身体拘束についての研修を定期的に行っております。	